

作品募集

応募締切 2019年9月20日(金)

主催：日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

協力：国際障害者交流センター(ビッグ・アイ)



募集要項(国内応募)

出品規定 国内外を問わず、障害のある方が制作したアート作品で過去に受賞歴のない作品。

応募資格 作者本人または親権者(未成年)、保護者、後見人もしくは作者から作品の使用権を移譲された法人。

応募点数 1作者につき3点以内とします。

出品規格

種類 絵画、イラスト、グラフィックデザイン、書、写真、造形など。素材やテーマは自由です。

※生花など生鮮物を用いた作品、火器などの危険物を用いる作品は対象外とします。

※他者の著作権や肖像権に抵触する作品は対象外とします。

※第三者の肖像、プライバシー及び著作物等を含む応募作品については、応募及び主催者による利用について、当該権利者からの事前の使用許諾・承認を受けたうえでご応募ください。主催者は応募作品の利用によって、応募者および第三者に生じた一切の損害について責任を負いかねます。

※受賞歴のある作品であることや、著作権等第三者の権利を侵害していることが判明した場合は、入選や受賞等を取り消すことがあります。

額装 額装の必要はありません。 ※額装をした上で作品の送付を希望される場合は、ガラスは使用しないでください。

大きさ・重量 : 展示の制約上、下記のサイズを限度とします。

平面作品	縦 200 cm × 横 120 cm 以内	※写真作品については、4ツ切りサイズ(25.4 cm × 30.5 cm)以上のプリントが望ましいです。プリント方法も作品の一部と見なします。
立体作品	高さ 200 cm × 幅 150 cm × 奥行 150 cm	重量 50kg 以内

受付期間 2019年9月1日(日)～9月20日(金) ※作品持込期間: 9月10日(火)～9月20日(金) 10:00～17:00

応募料金 無料 (作品の送料は往復とも応募者負担)

- 応募条件**
- 本事業の記録画像などの利用にご同意いただけること。
 - 入選作品(審査員賞/入賞/佳作)は、日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS に最大1年間お貸しいただき、展覧会での展示、図録掲載、メディアなどの利用にご同意いただけること。

応募方法 応募用紙に必要事項を記入して封筒に入れ、作品と一緒に送ってください。

※複数作品応募の場合は、1作品ごとに応募用紙を添付してください。梱包はまとめていただいて結構です。

※応募用紙をコピーして使用する場合は、縮小せず、A3(もしくはA4 2枚)にコピーしてください。

※複数作品を1梱包で応募する場合は、宅配送付状に梱包された作品数を明記してください。

※応募用紙は日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS ホームページ内(<https://www.diversity-in-the-arts.jp>)からもダウンロードいただけます。

作品送付先

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展「作品応募」係
〒590-0115 大阪府堺市南区茶山台 1-8-1 国際障害者交流センター ビッグ・アイ 内
TEL 072-290-0962 FAX 072-290-0972

審査方法 審査員による現物審査を経て、審査員賞7点/入賞43点/佳作50点(予定)を選出します。
審査結果は10月中旬頃より書面で通知します。

※日本国外からの応募については、写真審査を経た後、現物審査となります。国外からの応募については、日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS ホームページにて「募集要項(国外応募)」をご確認ください。

入選特典 ●授賞式へのご招待(東京都内で開催予定): 審査員賞(交通費・宿泊費は主催者負担)

●入選作品展覧会での展示(東京・横浜で開催予定): 審査員賞/入賞

●作品図録への掲載: 審査員賞/入賞/佳作

運送方法 ●ご自身で梱包して、運送業者(日本郵便・ヤマト運輸・佐川急便など)に作品の運送を依頼してください。
●運送中の損傷がないよう、作品保護に充分配慮して厳重に梱包してください。
●作品送付先へのご自身での持ち込みも可とします。持込期間: 9月10日(火)～9月20日(金) 10:00～17:00
※梱包サイズの三辺(縦・横・高さ)合計が260cmを超える場合は、事前に日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 係までご相談ください。

作品返却

●選外作品: 審査会(10月中旬)終了後返送

●佳作作品: 2019年12月上旬返送

●審査員賞/入賞作品: 入選作品展覧会終了後返送

※原則として応募時の作品配送伝票に記載された送り主の住所に、応募時の梱包材を使用して返送いたします。

※宅配業者による送料着払いで返送いたします。

※搬入後の作業および審査中は作品の損傷などがないよう十分に注意いたしますが、万一損傷が発生した場合は、主催者の加入する動産総合保険による補償の範囲内で対応させていただきます。

お問合せ

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 係
TEL 06-4305-7518 FAX 06-4305-7519 Eメール contest@diversity-in-the-arts.jp

※お電話でのお問合せは、土日祝を除く
10:00～17:00とさせていただきます。

応募用紙

応募用紙に必要事項をご記入の上、作品に同梱してお送りください。

作者について		
作者名	フリガナ 氏名(本名)	フリガナ 作家名(雅号) ※使用される方のみ
障がい種別		年齢
		才
連絡先について ※結果通知の送付先になります。		
連絡先 (応募者)	フリガナ 氏名	作者との関係 ① 作者本人 ② 親権者(未成年) ③ 保護者 ④ 後見人 ⑤ 権利を移譲された法人
住所 <small>施設の場合は 施設名まで</small>	〒 都・道 市・区 府・県 町・村	
電話・FAX番号 <small>日中ご連絡の可能な番号</small>	電話	FAX
Eメール アドレス		

●応募者の個人情報は、以下のために使用します。

①本公募事業(次年度以降を含む)に関する連絡、作品及び資料送付、並びに日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS が行うその他事業のご案内。②当財団が発行する広報物、ホームページ、展覧会での作品名及び作者名の掲載。③当財団が行う本事業及びその他の事業を実施するため、業務委託先に必要な範囲で応募者の個人情報を提供すること。当財団は、業務委託先と取り扱いに関する管理可能な契約を結ぶ等、適切な監督を行います。

※日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS は、利用目的外の目的で応募者の個人情報を取得利用する場合は、利用目的、利用方法、利用範囲等の内容をご説明し、個別に応募者の同意を得たうえでを行います。ただし、法律のもと正当に請求された場合は、この限りではありません。


天(上)

作品写真

応募作品の写真を必ず貼付してください。


※写真の裏面に、作品の天地(上下)が分かるよう天・地を記入してください。
※立体作品などは、作品の正面が分かる写真を貼付してください。

天



地

天



地

縦長の作品は作品の天を左に、その他の作品は天が上になるように貼付してください。

地(下)

- 複数点の応募の場合は、1作品ごとに応募用紙をご記入ください。
- 応募用紙はコピーをとってお手元に保管してください。
- 応募用紙および応募写真の返却はいたしません。

応募作品について

作品名	フリガナ	制作年(西暦)
	年	
作品種別	該当する項目に○をつけてください。 <input type="checkbox"/> 絵画(イラスト、グラフィックデザイン、印刷されたものも含む) <input type="checkbox"/> 書 <input type="checkbox"/> 写真 <input type="checkbox"/> 造形 <input type="checkbox"/> その他()	
大きさ・重さ	縦(高さ) 横(幅)	奥行 ※立体造形の場合のみ
	cm cm	cm
素材	例) アクリル絵具、クレヨン、画用紙	重量
		kg

作者について (プロフィール、創作活動歴など)

作品について (創作時の思いや背景など)

※記入スペースが足りない場合は、別紙添付でも可(別紙を添付する場合はホッチキス等とめず、同封してください)。

※事務局記入欄

審査員 (氏名五十音順)



©Chisato Hikita

秋元 雄史

Yuji Akimoto

東京藝術大学大学美術館館長・教授/
練馬区立美術館館長

1955年東京都生まれ。東京芸術大学美術学部絵画科卒業後、1991年よりベネッセアートサイト直島のアートプロジェクトに関わる。2004年より地中美術館館長、ベネッセアートサイト直島・アーティストティック ディレクターを兼務。2007年～ 2017年3月まで金沢21世紀美術館館長。「金沢アートプラットホーム2008」、「金沢・世界工芸トリエンナーレ」、「工芸未来派」、「井上有一展」等を開催。2013年4月～ 2017年3月まで秋田公立美術大学客員教授。2013年4月～ 2015年3月まで東京藝術大学客員教授。2015年より東京藝術大学大学美術館館長・教授。2017年より東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 文化・教育委員会委員、2018年より練馬区立美術館館長を兼務。



上田 バロン

Baron Ueda

FR/LAME MONGER 代表 / イラストレーター

目が個性的でボールラインかつアグレッシブなスタイルのキャラクターイラストレーションを描く。主に広告や出版、ゲーム・メディアなど国内外で展開。代表作にマクドナルドコラボ・Google Chromeアーティストテーマ・ichikoroキャラクターデザインはじめ、布袋寅泰・EXILE・Perfumeなどのアートワーク。大人気人狼ゲームのキャラクターワーク。人気チーズタルト専門店PABLOの内装壁画。K-Design Award2017受賞。琳派400年の風神雷神を描き虎屋京都ギャラリーで披露。Redbull Ignition招待アーティスト。LIMITS世界大会2017で世界3位。玄光社より上田バロン初作品集「EYES」発売。



BALLENA STUDIO

エドワード M. ゴメズ

Edward M. Gómez

RAW VISION 主任編集者

アートジャーナリスト、評論家、グラフィックデザイナー。ロンドンに拠点を置くアウトサイダー・アートマガジン「RAW VISION」の主任編集者であり、アメリカの雑誌「Art & Antiques」のニューヨーク通信員である。「ニューヨーク・タイムズ」、「アート+オークション」、「メトロポリス」(アメリカ)、「フォーク・アート・マガジン」、「ハイパーアレルジック」、「ジャパントイムズ」(東京)、「リフォーマ」(メキシコシティ)、「ジャマイカ・オブザバー」(キングストン)や、その他多くの出版物に記事や写真を提供している。彼が新しく製作したバルトン・タイラーについての映画は2017年に公開された。ニューヨークを拠点に活動中。スイス・ローザンヌのアル・ブリュット美術館諸問機関員を務める。



藏座 江美

Emi Zouza

一般社団法人ヒューマンライツふくおか 理事

2000年より熊本市現代美術館の学芸員・司書。2002年の開館記念展で国立療養所菊池恵楓園入所者と出会い、以降、様々な気付きを与えられる。2015年より一般社団法人ヒューマンライツふくおかの理事として、菊池恵楓園絵画クラブ金陽会の作品調査、保存活動を始める。また、松丘保養園、長島愛生園、星塚敬愛園、奄美和光園でも調査を行い、記録を残すために奔走中。「いのちのあかし展」(2016)、「ふるさと、奄美に帰る」(2018)、「知らない」を観に行こう。(2018)「知らない」を観に行こう。～絵の中のふるさと～(2019)など、各地で金陽会の絵画展を開催している。



中津川 浩章

Hiroaki Nakatsugawa

美術家 / アートディレクター

美術家としての制作活動と同時に、さまざまな分野で社会とアートの関係性を問い直す取り組みを行う。表現活動ワークショップ、バリアフリーアートスタジオ、美術史ワークショップ、講演等を通じて人間が表現することの意味、大切さを伝えている。アートスタジオディレクション、展覧会企画・プロデュース、キュレーションを数多く手がけ、川崎市岡本太郎美術館「岡本太郎とアル・ブリュット」展キュレーター、「ビッグ・アイ アートプロジェクト」展覧会アートディレクター等々務める。NPO法人エイブル・アート・ジャパン理事、NPO法人アル・ド・ヴィーヴル理事、一般社団法人 Get in touch 理事。Art InterMix 代表。



永野 一晃

Ikko Nagano

写真家

公益社団法人日本写真家協会(JPS)会員・京都読売写真クラブ代表・フォトコンテスト審査員等。1945年京都市生まれ。印刷会社企画部勤務を経てフリーの写真家。京都を中心に、骨董美術品・建築・料理・伝統工芸・人物ルポなどを撮影し出版物・雑誌に発表している。



望月 虚舟

Kyoshu Mochizuki

書家

1949年、姫路市生まれ、新潟大学教育学部書道科卒業。現在姫路市立好古学園大学校講師、毎日書道展関西実行委員。毎日書道展運営委員、大賞選考委員を経て、現在に至る。近畿地区独立書人団近畿地区統括、姫路美術協会運営委員、毎日書道展大賞受賞、(公財)独立書人団会員賞受賞、虚舟書法会会長として活躍中、作品揮毫、作品解説を通じて、書の臨書感、創作感を講話、研究集録などを通じて、自論を展開している。著書『コツがわかれば誰でも書ける』など。

日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展とは

日本財団は誰もが参加できるインクルーシブな社会の実現を目指し、障害者のアート活動を中心に「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS (ニッポンザイダン ダイバーシティ・イン・ジ・アーツ)」として多様性の意義と価値を広く伝え、越境や交錯、交歓の喚起を導くプロジェクトに取り組んでいます。

2018年度から始動した「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」では、アートを通じて障害のある人、ない人、全ての人々の交流を促し、感動やよろこびを共有し、障害のある人自身が自己の可能性を見出し、自己実現ができるよう、「障害のある人にアート活動の機会を提供」「才能あるアーティストの発掘」「障害のあるアーティストの活動を支援し社会へ発信」をコンセプトとし、多様性の意義と価値をより広く社会へ伝え、より多くの人へ届けていきます。

作品募集の流れ

写真だけでは伝わりにくい作品本来の魅力をありのままに感じることができるよう「現物審査」を行います。

